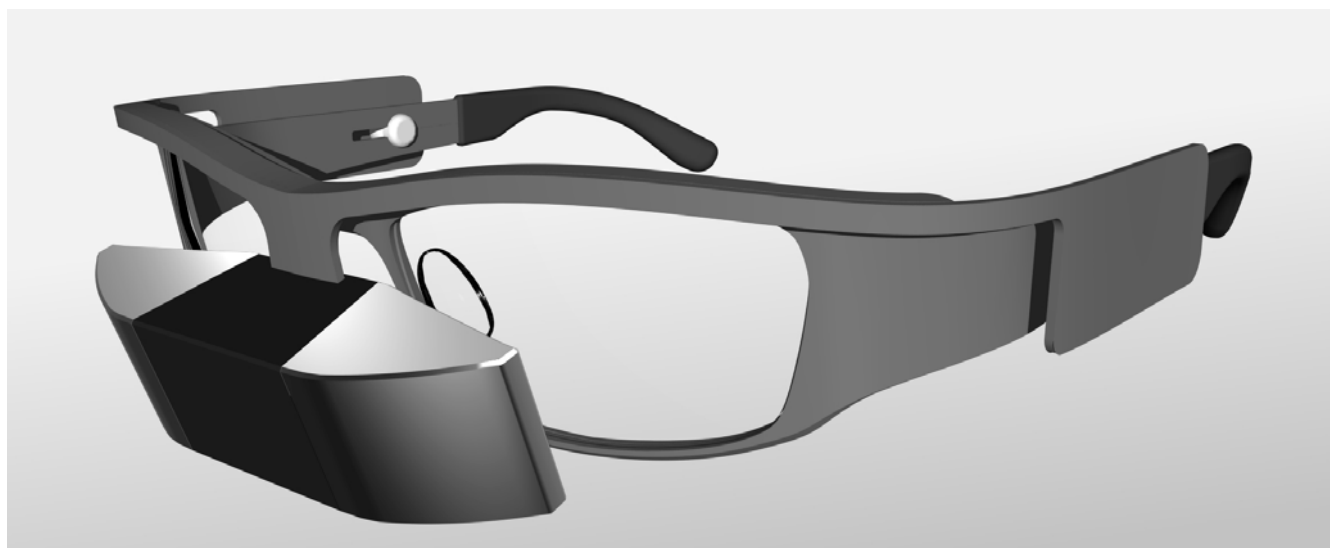




アイケア研究所レポート 特別号

アイケア研究所 最新活動レポート



「b.g.」新デザインのイメージ

「アイケア研究所」の発足を機に、アイケアに関わるトータルなソリューション活動を推進してきたアイケアカンパニー「メガネスーパー」。今回は、新デザインを発表した「b.g.」を含むメガネ型ウェアラブル端末の事業化に伴う新会社「Enhanlabo（エンハンラボ）」の設立、「アイケア研究所」を通じての異業種コラボによるアイケアサプリメント「アイラックW SUPER」の発売、そして、視覚を中心に五感全体の拡張を目指し、新たなテクノロジーの開発やM&A等による事業領域の拡大・成長を目指しての「株式会社ビジョナリーホールディングス」の設立という、アイケア研究所の核となるメガネスーパーの3つのトピックスをご紹介します。

- ① ウェアラブル事業の加速化に向け
新会社「Enhanlabo（エンハンラボ）」を設立
- ② アイケア研究所発のサプリ
「アイラックW SUPER」を発売
- ③ 事業拡大・成長に向けて
「株式会社ビジョナリーホールディングス」を設立

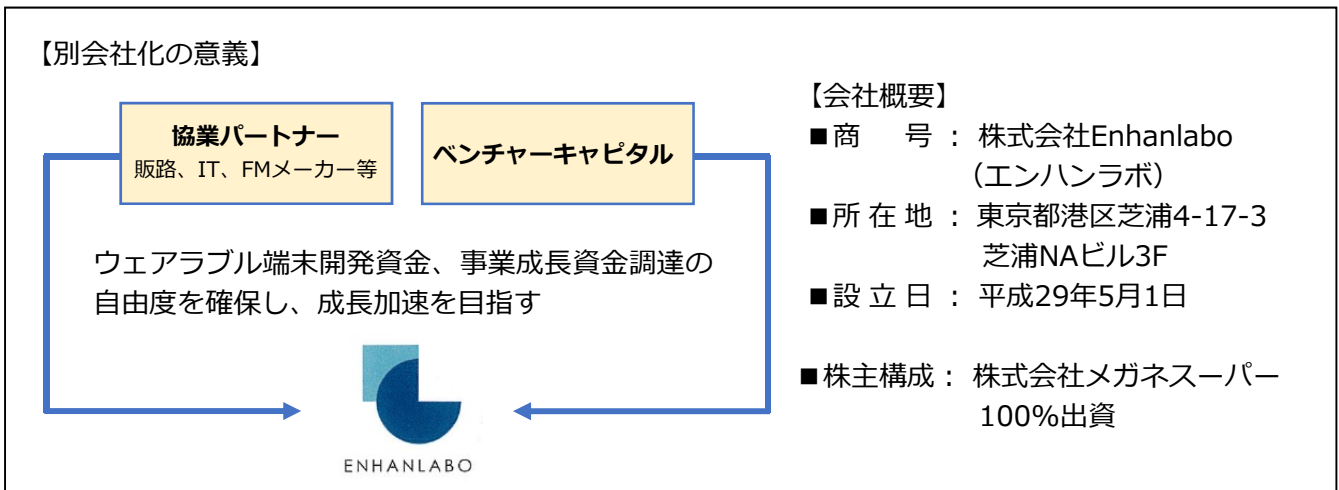
「アイケア研究所」は、メガネスーパーが中心となり、約850万人の顧客と、医療従事者、眼はもとより健康全般に関わる企業と連携しながら、眼の健康寿命の延伸を目指して最先端のアイケアの提供に取り組んでいます。「アイケア研究所レポート」では、毎日に役立つアイケア情報を皆様にお届けします。

① ウェアラブル事業の加速化に向け 新会社「Enhanlabo（エンハンラボ）」を設立

メガネ型ウェアラブル「b.g.」の量産化を進める 「Enhanlabo（エンハンラボ）」

「アイケア研究所」の核となり、眼に関わる多様なソリューション開発を推進するメガネスーパー。2017年5月1日、自社開発によるメガネ型ウェアラブル「b.g.」（ビージー）を含むウェアラブル端末の事業を担う新会社「Enhanlabo（エンハンラボ）」を設立しました。

ウェアラブル端末とは、時計型やイヤホン型などの身に付けて持ち歩くことが出来る情報端末の総称。なかでもメガネスーパーは「視覚拡張」をキーコンセプトに、「見え方」「かけ心地」にこだわったメガネ型ウェアラブル端末「b.g.」の商品開発を進めてきました。今回の会社設立は、「b.g.」モデルの量産化に向けての新たなスタートであり、ITをはじめ、さまざまなノウハウを持った異業種とのコラボを加速させ、ウェアラブル端末の領域において早期の事業化を図ることを目的としています。



「b.g.」の量産化に向けた改良ポイント

「b.g.」は、製造や物流、医療などをはじめ、さまざまな産業分野での活用を見込む、企業向けのメガネ型ウェアラブル端末。2017年1月に公開したプロトタイプは、解像度XGAのノンシースルー型ディスプレイを外フレームで固定し装着するスタイルでしたが、今回の改良版では2つのプリズムレンズを中央で固定するデザインに変更しています。

新デザインでは、旧タイプでは左右や下方向など見えにくい角度があるという使用者の声を反映し、実視界と映像のバランスを考慮し、より広い視野を実現すると同時に、フロントディスプレイの軽量化も可能にしました。また、旧タイプでは、左右のディスプレイの位置を変えることで、人によって異なる瞳の距離・位置の調整に対応していましたが、ディスプレイを一体化した新デザインでは、瞳孔間距離の調整が容易に行なえる設計となります。

b.g.プロトタイプ

- 両眼視設計
- ノンシースルー
高解像度ビューワー
- ビューワー位置の
可変と固定を両立
- 要視力矯正者も使用可能
- メガネフレームのかけ心地





新デザインのイメージ

- 量産時の効率を考慮した両眼視の追求
- (実視界とのバランスを考慮した) 広い視野の確保
- フロントのディスプレイの軽量化



Enhanlabo (エンハンラボ) 社長インタビュー

「ウェアラブル」「ハンズフリー」「音声入力」
顧客ニーズに沿ったソリューションですから
非常に大きな可能性があることを実感しています。

オリジナルのメガネ型ウェアラブル端末「b.g.」の量産化に向けて、また、さらに多様な異業種パートナーと連携しながら、新しい事業領域の拡大を目指す、新会社「Enhanlabo」。今回は、社長に就任した座安剛史に話を伺ってみました。



代表取締役社長 座安剛史

―新会社「Enhanlabo」を設立して約2ヶ月が経ちましたが、近況をお聞かせいただけますか。

座安剛史 (以下、座安) 2017年6月21日～23日、東京ビッグサイトで開催された「第28回 設計・製造ソリューション」では、株式会社シムトップスのブース内で、「b.g.」のプロトタイプ実機を展示。シムトップスが展開するソリューション「i-Reporter ver.6.0」とのコラボとして「建設・建築業、製造業における、音声による最新の帳票入力ソリューション」に関するデモンストラーションを行いました。これが非常に好評で、大きな手応えを感じました。

―それは素晴らしいですね。具体的な内容を教えていただけますか。

座安 例えば、設備関係のメンテナンスに従事する方たちの業務のフローを見てみると、機械関係をチェック→その結果を報告書にまとめる→その報告書をクライアントに送る…というプロセスがあります。シムトップスは既に帳票の電子化領域でトップシェアを持っていますが、クライアントからは将来像としてハンズフリーの実現について以前から強い要望が上がっていました。「b.g.」はディスプレイがハンズフリーですから、これまで作業終了後に作成していた報告書などの書類を、作業を行いながらリアルタイムで音声入力できる。よって、作業工数が大幅に削減でき、取引先に報告書を送付するまでの時間も大幅に短縮できる。デモを体験した方にも「これ、いいね」とすぐ理解していただけたようです。時間も人件費も大幅に縮小できて、迅速な対応で顧客満足度も上がる、「b.g.」が非常に効果が分かりやすいソリューションになるということを改めて実感しました。

―シムトップスとのコラボについては、どのように進んでいるのでしょうか。

座安 シムトップスさんのシステムというのは、先行してリリースできているもの。だから、あとは当社のハードと、シムトップスさんのソリューションを合体させて完成するのを待つばかりです。

また、設備メンテナンス業の中でも大規模なものになってくると、フランチャイズ化されています。そうすると、業務の標準化、均質化が非常に重要な課題となってきます。今回伺ったクライアントにしても、IT投資に非常に積極的で帳票の電子化などはいち早く取り入れてきた企業です。そういった企業が、ネクストステップとして取り入れるのが「音声入力」「ウェアラブル」「ハンズフリー」であると考えられます。一部の先進的経営者にはニーズがあるが、それに応えられるだけの十分なデバイスやソリューションが今までなく、逆に、それに叶うモノを提供さえできればビジネスになるという状況だと捉えています。ビルメンテナンス市場が3.8兆円といわれる中で、ひとつ深い事例を作ることができれば、横への拡がりはい早いのではないかと考えています。

―「IoTパートナーコミュニティ」への参加について教えてください。

座安 IoTイノベーションセンターが事務局を務める「IoTパートナーコミュニティ」は、IT企業やOT（デバイスや組み込み、操業技術）企業・団体が参加し、ワーキンググループを作り、実案件の推進と共同マーケティングによるIoTビジネスを進めるもので、翌年1月に東京ビッグサイトで開催される「ウェアラブルEXPO」で量産モデル発表を含めた成果を展示することを目指しています。6月28日現在で参画企業は既に決定しており、ワーキンググループとして活動を始めるのは、

Enhancelabo (エンハンラボ) 社長インタビュー

7月1日からです。キックオフして攻めていきますよ、という感じですね。私たちは新設のグループで、Enhancelaboを入れて5社でやることになっていますが、さらに参画企業が増える可能性もあり、色々調整をしているところです。

参画企業は、IT企業を中心にさまざまなソリューションを持った企業が集まっていますね。昨年の「ウェアラブルEXPO」では、私が製造業、農業をはじめ、ソリューションを提供したい分野の企業をリクルーティングして、5つの展示を出しましたが、今年も同様にB to Bの事例をアプリケーションとセットで展開していく計画です。

今回は、より具体的な販売実機モデルを展示し、一部の先行的な方たちには納入できるようにしたいですね。場合によっては、実証実験なども入ってくると思いますが、基本的には、先行受注が入り、実機が出来たらすぐ納品というプロセスにしたいです。次回の「ウェアラブルEXPO」は、納入するビジネスモデルを具現化した展示をしたいと考えています。

—それは楽しみですね。ほかにも新しい動きがあれば、お聞かせください。

座安 今、注目しているのは、「b.g.」のソリューションに関して、歯科医の方からの引き合いがすごく多いということです。メガネスーパーのウェブサイトの問合せフォームから連絡をいただくこともあります。どういうニーズかというと、歯科治療では口内を見るための拡大鏡（サージカルルーペ）の使用について普及が強まっています。

この拡大鏡は、比較的、安価なメガネ型の拡大鏡と、高額なマイクログスコープに大別できます。しかし、安価な拡大鏡は、両眼に拡大鏡を着けて見るのですが、焦点深度の狭さや重量で術者に負担がかかる、マイクログスコープは高額で初期の導入コストが重い。歯科医療の現場では、「拡大」のニーズがますます大きくなっているのに対して、まだまだハードの進化が追いついていない状況といえます。

そこで、webサイトなどで「b.g.」をご覧になった歯科医の方が、拡大鏡の進化版を作ることができるのではという期待を持たれるようです。私たちも歯科機器メーカー等に働きかけ、新たなソリューションを提供することを検討しています。単に営業や広報宣伝という範囲ではなく、大学や医療機関、専門メーカーなどの方たちと連携することで、理想的な未来の拡大鏡を作ることができたらと考えています。

「b.g.」が未来の拡大鏡として活用されれば、さまざまな映像や画像を映せるため、たとえば先生が見ている映像を同時に助手が共有するというようなことも可能になるでしょう。また、「b.g.」に過去のカルテやレントゲンを表示することで、見る場所を切り替える必要もなくなるでしょう。本当にさまざまな活用法が開発できると思います。

「拡大」をキーコンセプトとして進めていく事で、メガネ型ウェアラブル端末が、新たな歯科医療のインフラになるのではないかと大きな可能性を感じています。医療関係に限らず、新しい市場に参入しようとする、旧態依然とした規制やルールに縛られている部分に気付かされることも多々あるのだらうと思うんですね。しかし、それをチャンスと捉え、そこに私たちが全く新しいプレイヤーとして入って行くことで、業界の常識に風穴を開けるような新しいことができれば面白いですね。



2016年1月開催の「ウェアラブルEXPO」

2 アイケア研究所発のサプリ「アイラックW SUPER」を発売

内側からアイケアをサポートする「アイラックW SUPER」

メガネスーパーは、眼の健康寿命を延ばすための解決策を提供する企業として「アイケアカンパニー宣言」を掲げ、また「アイケア研究所」を通じて、お客様のさまざまなニーズに応じたアイケア商品・サービスの拡充を図ってきました。そんな中で、2016年12月、メガネ・コンタクトレンズの提供だけでなく、現代人の「見る力」を身体の内側からサポートするアイケアサプリとして「EYEラックW（アイラックダブル）」を発売。そして今回、その新バージョンとして登場したのが「アイラックW SUPER」（アイラックダブルスーパー）です。スマホやパソコンを長時間使う方、クリアで快適な毎日を過ごしたい方、美容や健康が気になる方などにおすすめ。2017年6月28日から1ヶ月間は、TV通販チャンネル「QVC」にて先行販売するほか、8月からは全国のメガネスーパーにてお買い求めいただけます。



メガネスーパーが本気で考えた配合成分

メガネスーパーが「お客様の眼のお悩みにお応えする成分は何か」と本気で取り組んだ結果、たどり着いたのが、アスタキサンチンとコンドロイチンです。

原材料は、抗酸化作用に富むアスタキサンチンを美容・健康分野で研究し続けている富士フィルムのアスタキサンチン原料「ASTOTS」を採用。富士フィルムが推奨する1日の摂取量6mgを配合しています。また、眼の角膜や水晶体、毛様体、硝子体などに存在し、加齢と共に産生されにくくなるコンドロイチンのパワーも取り入れました。このコンドロイチンとアスタキサンチンの組み合わせは、配合特許を活用しています。

メガネスーパーがたどり着いた配合成分	
マリーゴールド抽出物 (ルテイン9mg含有)	コンドロイチン 48mg
富士フィルムのアスタキサンチン ASTOTS 6mg <small>(富士フィルム推奨摂取量)</small>	1日3粒あたり... ビルベリーエキス末 9mg 配合特許を活用した組み合わせ!! <small>特許第5865242号</small>

アスタキサンチンは、鮭やカニ、いくらなどの赤い色素であるヘマトコッカス藻由来、コンドロイチンは鮭の鼻軟骨から取れる希少な成分に加え、アイケアのサプリメントでは広く知られている成分であるマリーゴールドから抽出したルテイン、ビルベリーエキスを配合しています。さらに、夜間の視力の維持を助けるとともに、皮膚や粘膜の健康維持を助けるビタミンAを配合した栄養機能食品となっています。また、高品質なサプリメントをご提供できるように、品質管理を徹底した国内の※GMP認定工場で、安全安心の製造をしています。※GMP (Good Manufacturing Practice) = 「適正製造規範」とは、原料の在庫から製品出荷までの全製造過程において、製造が「安全」に作られ、「一定の品質」が保たれるように定められた規則とシステムの事です。

こんな方におすすめ

「アイラックW SUPER」は、「見る力」を内側からサポートするアイケアサプリです。

シニア世代の方はもちろん、「最近、近くのスマホや新聞の文字が見づらい」「急にメガネの度が合わなくなった」という老眼の初期症状が見られる40代の方にも最適なメガネやコンタクトレンズを使用すると同時に、内側からのアイケアをおすすめします。

また、パソコンやスマホを長時間にわたって使用する方、夜遅くまで読書をしたり、手芸などの細かな作業をする方、健康や美容に配慮する方など、年齢や性別にかかわらず広くおすすめしたいサプリです。



アイケアカンパニー宣言!

アイラックW SUPER (アイラックダブルスーパー) 企画開発メンバーインタビュー

眼の前部からも、後部からも
総合的にサポートしてくれる、
とても分かりやすいサプリなんです。

内側からも「見る力」をサポートしたい！という発想から生まれた「アイラックW SUPER」。今回は、企画開発メンバーの一人である渡邊則重にそのおすすめポイントのポイントを聞いてみました。

— 「アイラックW SUPER」はどのようにして生まれたのでしょうか。

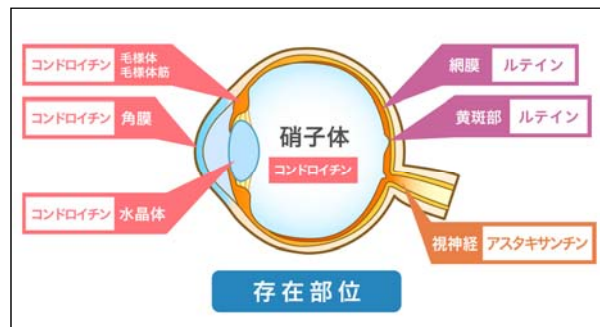
渡邊則重 (以下、渡邊) 「アイケア研究所」のメンバーが中心となって、お客様のご要望や有識者のご意見を聴き、メーカーとのコラボによって作り上げたアイケアサプリメントです。

メガネスーパーの累計1,000万人以上のお客様のお悩みを分析した結果、老化による眼の衰えと、パソコンやスマホなどによる眼の負担増というのが多く見られました。そして、それに応えられるものとしてたどり着いた成分が、このアスタキサンチンとコンドロイチンだったんです。

— どのような点に

期待が持てる成分なのでしょうか。

渡邊 これが、非常にわかりやすいんです。保水性や粘性を持つコンドロイチンは、皮膚や軟骨などの成分として知られますが、角膜、水晶体、毛様体など眼の前面部分と、硝子体に存在している成分です。加齢と共に産生されにくくなるコンドロイチンを補うことで、まず、眼の前面部分の潤いを保ち、老化防止やダメージ補修をサポートすることが期待できます。一方、アスタキサンチンは、鮭、カニ、イクラなどの赤い色素の由来であるヘマトコッカス藻から抽出したものです。このヘマトコッカス藻は、もともと緑ですが、光や乾燥などのストレスを受けると、アスタキサンチンをつくり、赤く変色して身を守るといいます。アスタキサンチンは、主にアンチエイジング化粧品の成分として知られますが、健康サポート成分としても注目されています。眼においては、後方にある視神経をサポートすることが期待できます。さらに、眼の後方の網膜や黄斑部に存在するルテインや、ビルベリーエキスも配合しており、眼球を前後から総合的にサポートする、非常にリッチな成分配合を実現しました。また、これらの成分の組み合わせは、配合特許を活用しており、この特許を商品化しているサプリメントはほかにありません。(特許第5865242号)



— このようなリッチな成分を普段の食事で
バランス良く摂るのは難しいのでしょうか。

渡邊 そうですね。アイラックW SUPERの1日3粒に相当する成分を食品から摂るとなると、ちょっと難しいと思います。コンドロイチンは、鮭の鼻の軟骨由来ですが、1尾の鮭から取れるコンドロイチンはわずか1gしかありません。アスタキサンチンを6mg摂ろうとしたら、いくらを約428gも食べることになります。ルテイン9mgは、なんとトマト72個分(1個125g換算)です。バランスの良い食事で必要な栄養素を摂ることは大切ですが、摂りにくい成分は、サプリメントで効率良く摂ることもひとつの選択肢だと思いますね。

**アイラックW SUPER
1日3粒に相当するのは…**

**コンドロイチン
48mg**
鮭の鼻軟骨から
わずか1g/1尾



**アスタキサンチン
6mg**
いくら
約428g相当

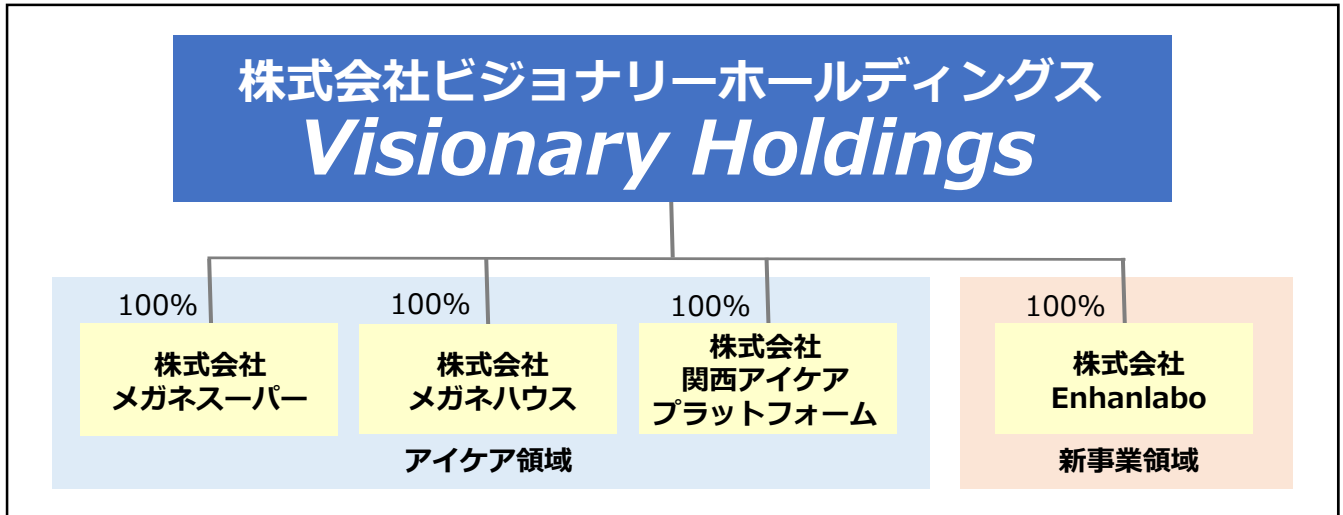


3 事業拡大・成長に向けて 「ビジョナリーホールディングス」を設立

「ビジョナリーホールディングス」を設立でグループの総合力強化を

「メガネスーパー」は、2017年11月1日付で同社単独の株式移転による純粋持ち株会社となる「ビジョナリーホールディングス」（以下、ビジョナリーHD）を設立する運びとなりました。

「ビジョナリーHD」は、「メガネスーパー」をはじめ、今年1月に子会社化した「メガネハウス」、
「関西アイケアプラットフォーム」、そして、新会社の「Enhanlabo」の4社を傘下に持ち、グループとしての事業拡大・成長を目指します。



眼の健康プラットフォーム構想

「ビジョナリーHD」のビジョンのひとつとして「眼の健康プラットフォーム構想」があります。これは、戦略的なアライアンスやM&Aを通じてローカルチェーンをネットワーク化するなど、アイケア重視のサービス型店舗モデルのプラットフォームを構築していこうというものです。こうすることによって、全国どこでも、メガネやコンタクトレンズの販売にとどまらず、アイケアに関する質の高いソリューションを提供することが可能になります。

ウェアラブル端末の事業領域における成長加速を目指す

もうひとつ重要なファクターとなるのは、成長戦略のひとつであるウェアラブル端末事業の強化を図るため、新会社「Enhanlabo」を2017年5月1日に設立したことです。メガネ型ウェアラブル端末「b.g.（ビージー）」は、来年1月、東京ビッグサイトで開催される専門展「ウェアラブルEXPO」に出展後、量産を開始する計画にあり、グループを牽引する新しい事業として大いに期待されています。

社名に込められた思い

「Visionary Holdings」（ビジョナリーホールディングス）という社名には、視覚・視力、また見えるものやそのありさまを意味する「Vision」に、将来のあるべき姿を描くという意味合いも加えました。そして、アイケアカンパニーとして、グループで人々の眼の健康寿命延伸に繋がる商品・サービスを提供して行くことはもちろん、眼や見ることの未来を見つめ、そして、視覚をはじめとした五感の領域においても社会に貢献していきたいという願いが込められています。メガネ型ウェアラブル端末という視覚を拡張する事業に取り組み始めたように、今後はさらに五感を拡張するさまざまな事業領域にアプローチし、より豊かな未来を創造していくことを目指します。

「ニュースレターに関するお問合せ先」

商品の貸出しをはじめ、眼やメガネに関する取材などのご要望がございましたら是非ご相談ください。

株式会社メガネスーパー

神奈川県小田原市本町四丁目2番39号

広報担当：中村 (n.nakamura@meganesuper.com) TEL 0465-24-3836 FAX 0465-24-3610

メガネスーパー広報事務局（株式会社イニシャル内）

担当：長町、林 TEL：03-5572-6062 FAX：03-5572-6065

アイケアカンパニー宣言！